

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第279号  
2023年7月



一般社団法人  
大学女性協会



## 特集 第12回定時会員総会の報告

会長挨拶.....	2	CSW67に参加して、訃報 宮島茂子さん .....	8
若手女性科学者海外研修助成事業の開始について		生涯学習委員会、文化交流委員会.....	9
総会議事抄録、開催報告、役員および担当委員会一覧...	3	香港大学女性協会 CIR 来日	
支部長会2023、会員拡大ワークショップ.....	4	若手会員企画ワークショップ.....	10~11
総会研修旅行報告、2023年度全国セミナーのご案内...	5	長崎支部会員の活動について	
第25回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式...	6	秋のコンサートのお知らせ.....	12
守田純子先生の遺言に感謝して		パトリシア募金寄付者ご芳名、理事会から	
受賞者研究概要.....	7	国内奨学生募集要項、新入会員	

## 「次世代」「ユース」をキーワードとして

会長 岩村道子



第12回定時会員総会（5月21日）終了後、本部・理事会は本格的に新年度業務を開始いたしました。総会は、8年ぶりの理事会主導での東京開催となりました。総会にご出席くださった方々、議決権行使書で議案評決をなさってくださった方々、そして総会運営にご協力くださいました東京支部、収益事業委員会の皆様に心から御礼申し上げます。

昨年の第11回定時会員総会后にスタートした現体制での理事会は、5月の総会后2年目に入りました。昨年度の理事会は通常業務を遂行しつつ、「次世代」「ユース」の二つの言葉をキーワードとしてJAOWのこれからを考えてゆくことにして、いくつかの試みを実行に移すことができました。

まず、JAOW 公開シンポジウムは「教育・ジェンダー・共生」をメインテーマに「ユースの視点」から、これからの日本を見直すことにいたしました。パネリストとして登壇した現役の教員・研究者である若手会員や大学生の話に感銘を受け励まされたとの感想を参加者からいただいております。そして今年度のセミナーでは、「ユースの力」を日本の未来に活かすための方策を考える予定です。政治学者の三浦まり会員を基調講演者とし、日本の地方行政に携わった経験をお持ちの会員、国内奨学生の方たちなどがパネリストとして登壇いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

一方、会員には現役で多忙なためJAOWの種々の活動には殆ど参加できずいらっしゃる方も多数おいでです。例えば、守田科学研究奨励賞受賞者には受賞時に入会をお願いしておりますが、数年会費会員を継続なさった後、退会される方もいらっしゃいます。リケジョの理想的なロールモデルである受賞者と国内奨学生のみなさんをJAOWとしてつなげられたらと私は願っておりました。その方向に

向けての第一歩として、昨年来、東京と京都で支部活動にご参加くださっている若手会員4名と理事数名とで、「次世代につなげる会」を仮称とするオンラインでの話し合いを重ねてきました。その話し合いの中で、若手会員企画のワークショップが実現いたしました。このワークショップ企画担当の若手の方たちによる感動的な報告が本会報に掲載されております。「ワークショップから次のステップへ」という4名の方たちの願い、そして、国内奨学金贈呈式やワークショップの際にお目にかかった国内奨学生の方たちのJAOWをつながりの場とすることへの願いなどを追い風にして、今年度は「次世代につなげる会」を何とか形あるものにしてゆきたいと考えております。

さて、今年度理事会は、昨年度と同じ顔ぶれの理事14名、監事1名の構成で、理事・監事定数を充足しないままでのスタートとなりました。理事の充足については、昨年秋に役員選考委員会より推薦いただいた方たちに理事会への参加をお願いしてまいりましたが、お引き受けくださる方を見つけることができませんでした。お声かけをした方皆さまが多忙、お連れ合いや親御様の介護、ご自身の健康上の問題など、そして何よりも理事会任務がたいへんに多忙であることを挙げられて辞退なさっております。しかしながら、現在の理事会構成員にもそのような事情を抱えの方が多数いらっしゃいます。入退院を繰り返しながら種々の重要業務をこなしてこられた方、業務遂行で体調を崩された方、お連れ合いの介護の傍らご活躍くださる方など多数おられて、会長として胸痛む思いです。現在理事会は東京近辺のみならず岡山、奈良、静岡支部から4名が理事として参加しており、理事会は対面・オンライン併用が常態となっています。このような理事会の事情をご理解くださり、全国の支部の方々が理事会にご参加くださることを期待しています。そのためにも、理事会業務の簡素化などを多少なりとも進めてゆきたいと思っております。

今年度も会員のみなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 若手女性科学者海外研修助成事業の開始について

昨年度「自然科学分野の若手女性研究者の海外研修助成」を目的とする指定寄付が本協会に寄せられたことを受け、その目的遂行のために第8事業を立ち上げ、実施方法を科学研究奨励委員会に諮問いたしました。その結果、守田賞受賞者から推薦され、研修期間中の支援が確約されている若手女性研究者を対象者として選抜し、海外渡航費および期間中の滞在費を助成する事業として理事会承認を得ました。言わば、守田科学研究奨励賞事業の発展版、すなわち受賞者の方々による後進の女性研究者育成支援事業として今年度より実施いたします。

(岩村道子)

## 第12回定時会員総会議事抄録

日 時：2023年5月21日（日）9：30～12：10

場 所：グランドプリンスホテル新高輪3階 天平

（東京都港区高輪3-13-1）

1. 総会成立確認：牧島悠美子総務理事から2023年5月21日午前9時30分現在の出席者65名、議決権行使書提出者334名、出席者合計399名の報告があった。正会員608名の過半数以上の出席により総会の成立を確認。

2. 開会の辞：岩村道子会長から開会の挨拶の後、逝去会員7名の冥福を祈って黙祷

3. 議長選出：定款に基づき、岩村会長が議長となる

4. 書記選出：牧島悠美子理事を選出

5. 議事録署名人選出：市川知恵子・中道貞子両理事を選出

### 6. 議事

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：渡部由紀子会計理事から議案書に基づき貸借対照表及び正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて森川淳子監事から業務及び会計監査の報告の後、議長が同議案の承認を諮り、賛成多数、過半数以上の承認により可決された。

第2号議案 理事1名選任の件：市川副会長から提案理由、理事候補者推薦について説明がなされた。議長が同議案の承認を諮り、異議なく賛成多数、過半数以上の承認を得た。被選任者森川淳子は就任を承諾した。選任された森川淳子は4月15日の理事会で、5月21日付で監事を辞任する旨の辞任届を提出し、受理されている。

報告事項：①2022年度補正予算②2022年度事業報告③2022年度公益目的支出計画実施報告④2023年度事業計画及び予算書について各担当理事から報告があり、佐々木澄子監事から監査報告があった。

7. JAUW 全国セミナーについて：2023年10月21・22日（土・日）エッサム神田ホール1号館で開催予定。メインテーマは「教育・ジェンダー・共生」を継続し、サブテーマは「ユースの力を日本の未来に活かすために」とする。基調講演：三浦まり会員（上智大学教授、東京支部会員）「生きづらさに立ち向かう」

8. 次期総会開催地に関するお願い：協力頂ける支部を募集中（注：後日、愛知支部の申し出あり）

9. トルコの大地震への見舞金：協力感謝

10. ウィメンファースト（旧 VGIF）募金について

以上をもって第12回定時会員総会は閉会した。

## ようこそ対面の笑顔溢れる総会へ



副会長 市川知恵子

2014年以來の東京における総会です。今回は青木怜子元会長のご紹介によりグランドプリンスホテル新高輪で開催できました。開催地の東京支部ではなく理事会が主催となり、品川駅近くの都市型の便利な高級ホテルの広々とした会場に全国から76名の会員が集い、会の未来へ向けて活発な意見の交換と友情の交流があり、お蔭様で盛況のうちに終わりました。ご理解ご協力に感謝いたします。

1日目は支部長会（19支部）、懇親会、2日目は第12回定時会員総会と全国総会、3日目は歌舞伎鑑賞又はランチクルーズのどちらも好評で大成功となりました。収益事業委員会のバザーは全国の会員からの寄贈品もあり人気でした。今回は生涯学習委員会が『災害の記憶をつなぐ』を配布し、出版記念寄付のお願いをいたしました。社会福祉委員会から冊子『「大学における障害学生支援」調査』の紹介がありました。

懇親会では、箏：青木麻衣子氏、十七絃：木田敦子氏、尺八：田辺恵山氏の3人による邦楽の演奏があり、心に響く調べを皆様喜んでいただきました。指導の佐野奈三江氏は1995年の第25回国際大学婦人連盟総会の晩餐会で箏の演奏を披露され、各国会員約600人に絶賛された方です。

来年の総会は名古屋で開催です。皆様とお会いできますのを楽しみにしております。今後ともよろしく願いいたします。

## 役員および担当委員会一覧

理事（分掌）	氏名	担当委員会（委員長）
会長	岩村 道子	ウェブサイト管理委員会（岩村道子）
副会長	中道 貞子	企画委員会（中道貞子）
副会長	市川 知恵子	注：役員選考委員会、会員拡大委員会、規定等検討特別委員会、公益目的支出計画に関する特別委員会が理事会の要請に基づき設置される
総務	牧島 悠美子 森川 淳子	
会計	渡部 由紀子	
財務	嶋田 君枝	
理事（調査・研究）	窪田 憲子	調査研究（片岡雅子）、生涯学習（曾田佳代子）
理事（奨学奨励）	秋光 正子	国内奨学（向後紀代美）、社会福祉（遠藤理枝）、科学研究奨励（菅原洋子）、国際奨学（加納孝代）、若手女性科学者海外研修助成（菅原洋子）
理事（国際支援、CIR・国際ネットワーク）	岡崎 優子	文化交流（建部静代）、国際ネットワーク（鈴木千鶴子）
理事（広報）	穂田 信子	広報（端本和子）
理事（事業）	松崎 和子	親睦事業（植松ちどり）、収益事業（中山正子）、文化事業（鷺見八重子）
理事（支部）	山下 いづみ 鷲崎 千春	
監事	佐々木 澄子	

## 支部長会2023

2023年5月20日 (14:30~16:30)

グランドプリンスホテル新高輪 3F 平安

司会：支部担当理事 山下いづみ

記録：支部担当理事 鷺崎千春

ホテル平安の間に、理事・監事15名、19支部から支部長が集結。岩村会長よりこの1年を振り返り、会計、総務担当理事がそれぞれ1名しかいない厳しい状況でのスタートだったにもかかわらず、『災害の記憶をつなぐ』の本が刊行できたこと、初めての試みである「若手会員によるワークショップ」が開催でき、故守田純子さまの遺産を再度ご寄付いただいたこと、若手女性科学者への海外研修支援の新事業等、意欲的な取り組みについても説明があった。

中道副会長からは秋のセミナー「教育・ジェンダー・共生 ～ユースの力を日本の未来に活かすために～」において、各支部からこのような活動をしていると発表いただき、要請があった。また、GWI世界大会には13名がZoom参加したこと、新事業についてもそれぞれの担当から詳しい説明があり、山下理事のリードでようやく支部長会へ進んだ。



今年南の支部から順番にということで、梅田長崎支部長がトップバッターとなり、高齢化を迎えたご自分の家庭事情を話された。柿本広島支部長は折しも、「G7広島サミット」に重なり、空港まで大変苦勞して出席されたとのこと。多くの支部から支部長の引き受け手がない実情が述べられたが、会員数を保持するために様々な工夫をし、活動を続けていると報告があった。例えば、近畿の4つの支部、京都、大阪、神戸、奈良と一緒にオンラインで国内奨学生（京都支部及び神戸支部から推薦された学生）の講演会を持ち、若手の京都支部会員に司会を務めてもらった等。長野支部からも社会福祉奨学生に支部推薦の学生が選ばれ嬉しかったと報告があった。優秀でもなかなか国内奨学生に選出されるのは難しく、多くの支部が、支部推薦奨学生と講演会や支部奨励賞などで繋がりを持っている。

91歳以上の会員の会費は免除になっているが、払ってくださるのなら有難く受け取っているという支部も多い。長崎支部、福井支部では視覚障害の方に音訳をしている、金沢支部では病児保育に携わっている人を支援している。大分支部からは、大分市の男女共同参画センターと繋がって、そちらの企画にも参加し、大学女性協会の存在を認めていただけたとの報告があった。いかに若い方に大学女性協会に関心を持っていただき、活動に参加していただくか、これが今後の喫緊の課題である。

和やかな雰囲気の中で、時間が足りないくらい活発な意見が交わされた。

和やかな雰囲気の中で、時間が足りないくらい活発な意見が交わされた。

和やかな雰囲気の中で、時間が足りないくらい活発な意見が交わされた。

## 会員拡大ワークショップ

山下いづみ

日時：2023年5月21日（日）午後2時30分～午後3時30分  
場所：グランドプリンスホテル新高輪 3F 天平  
進行：山下いづみ会員拡大委員会委員長・支部担当理事  
記録：穂田信子理事  
参加者：約80名  
準備物：各テーブル（8グループ）に模造紙2枚、付箋紙4冊、マジック2本、資料（参加人数分）

### ワークショップの趣旨：

会員増強の為の情報交換、アイデア交換、会員交流、そして実際に会員を増やすこと。

### ワークショップの内容：

#### 1. 組織の強みと弱みを考える

強みについては、国際組織で全国組織であること。歴史があっていろいろな専門家がいる。女性と女兒の課題について、社会意識を持って活動している。そして、人格的に



前向きな人が多く、意欲的で真面目で何でも言い合える。好奇心や包容力があり、社会的交渉力に富んでいる、などの意見が出された。

弱みについては、事務的なことが多く、特定の人たちに偏りがち。知名度はなく、若い会員が少ない。会費のこと、支部と本部のギャップもあるなどの意見が出された。

#### 2. 年代別アプローチ

20代：奨学金の紹介や、この世代に関心のあるテーマの勉強会や文化事業を行う。会費も無料にしてはどうか。

30代：子育て、仕事と忙しい時期。会員が彼女たちのサポートをできないか。自分の生き方を見つ



られる場所ですよと紹介する。

40代：これからの人生のためにも一緒に活動をしなにかと誘う。まだまだ、子供のことでお金がかかる世代。協会でアルバイトができるようにできないか。

50代：世界に視野を広げられますよと、誘う。

60代：定年の時期。今までの経験が活かされますよ、新しい学びができますよと、誘う。

70代：若く健康を保つためにも、一緒に活動をしていきましょうと、誘う。

最後に、会員拡大に向けて、個人の目標と支部へ提案することを各自で書き記していただき、ワークショップは終了した。

所感：会費の設定については、様々な意見が出るが、今一度大学女性協会の意義と組織について会員間で共通認識をする必要があると感じた。ワークショップで出た意見の中から、1つ2つテーマを取り上げて、深掘りする機会を作り、今後の会員拡大に繋げていければと思う。

## 総会研修旅行報告

### 歌舞伎観賞～「団菊祭五月大歌舞伎」

収益事業委員会 中山正子

9年ぶりに東京で開催された第12回全国総会、その研修旅行は第3回と同じく収益事業委員会が担当することになりました。委員会でいろいろ検討の結果、前回大変好評だった歌舞伎鑑賞と、東京湾ランチクルーズに決まりました。

5月22日、歌舞伎座恒例の「団菊祭五月大歌舞伎」鑑賞会には33名の方がご参加くださいました。尾上菊五郎の孫の寺嶋眞秀（10歳）が初代尾上眞秀（おのえまほろ）を名のり、初舞台をつとめることが発表されて、前評判は上々、チケットの売れ行きもよいと聞いていましたが、1階前方の花道横の座席をとっていただくことが出来ました。新開場10周年を迎えた歌舞伎座はたいへん華やかで、ロビーは「お芝居見物」という雰囲気です。

また、初舞台を祝うフランスのメゾン（シャネル）傘下の工房で制作された見事な祝幕（引幕）がかけられていて観客の目を引きました。

昼の部は、江戸歌舞伎の様式美あふれる人気作「寿曾我対面」、織田信長の青年時代の孤独や苦悩を、大佛次郎が十一代市川團十郎のために書き下ろした「若き日の信長」、そして最後の演目、「音菊眞秀若武者」は、初代尾上眞秀の初舞台を祝う一幕です。前半では女童姿で愛らしい舞を、後半では、少年剣士の姿で大きな狛々との勇ましい立ち回りを披露。私たちは可愛らしく、しかも堂々として花道を引っ込む「眞秀くん」にすっかり魅了されてしまいました。

3階のお食事処「花籠」で談笑しながらみんなでいただいた花車膳も美味しく、好評でした。

終演後は、歌舞伎座ギャラリー回廊、屋上庭園、お土産処「木挽町」などへと、三三五五の解散となりました。



シャネル  
祝幕

3日にわたる総会行事の最後を、皆さまにお楽しみいただけて、担当者一同たいへん嬉しく思っています。



歌舞伎集合  
写真

### シンフォニー・モデルナで東京ベイを

巡るランチクルーズを楽しむ

収益事業委員会 建部静代

SYMPHONY MODERNA (2,618トン、全長83.20m) 船の最前線で180度の光景が広がる船室ポロネーズ (256m<sup>2</sup>プライベートデッキ付き) でクルーズを楽しみながらゆったりと正餐を味わう企画です。一番の心配は空模様。しかし、こればかりは祈るのみ。幸運なことに当日はさわやかなブルーの空と海、太陽のひかりを浴びて、「レインボーブリッジ、ゲートブリッジ、東京タワー、スカイツリーなど」話題のスポットがパノラマのように目前に迫ります。レインボーブリッジとスカイツリーが重なるシーンもしっかりとシャッターを切りました。

東京會館の料理長として活躍された小濱雅悦料理長が私達の為にご用意くださった料理は華麗な「タイタニック号」の100年前のメニューの再現でした。

岩村道子会長の乾杯の発声で、参加者全員で祝杯をあげました。フレンチのフルコースは鶏卵のゼリー寄せキャベツア添え、ポターージュ・サンジェルマン、オマール海老のテルミドール、牛トルネードステーキ編笠茸添えにデザート、コーヒーで、最近なかなかみることがないオマール海老のテルミドールは絶妙な逸品でした。備え付けのキッチンで、料理長自ら調理をしているのが見えます。最初のオードブルのブルーのお皿のガラスの蓋をボーイさんが取りあげると蒸気がふわーっと立ち上り、お皿に「Go around Woman」の文字が浮かびあがってきます。一瞬タイタニック号の淑女達の笑い声が聞こえたような気がしました。

コーヒータイムにはチーム B.B カルテットによるドアープライズで賑わいました。料理長からビックサプライズがありスペシャルな賞品が幸運な旅人の手に。

最後はヴェルディのオペラ「椿姫」からアリア「乾杯の歌」をソプラノ歌手岩田悠さんが熱唱。「ブラボー！」と拍手がやまず、クルーズの旅は最高の瞬間を迎えました。



アリア  
「乾杯の歌」



ランチクルーズ  
参加者36名

### 2023年度全国セミナーのご案内

「教育・ジェンダー・共生」～ユースの力を日本の未来に活かすために～

企画委員長 中道貞子

日時：10月21日（土）11：00～16：30／22日（日）9：30～11：40

会場：エッサム神田ホール1号館（神田駅至近）

21日（土）17：30～19：30 会場近辺で懇親会

形式：基調講演と全体会は対面と Zoom によるハイブリッド形式、分科会は対面のみ

内容：基調講演・全体会Ⅰ・分科会・全体会Ⅱ

基調講演者は、三浦まり上智大学教授（東京支部会員）。全体会Ⅰは、支部からの活動報告、CSW67参加報告、調査・研究委員会によるアンケート調査中間報告を予定。分科会は「教育」「ジェンダー」「共生」の3分科会に分かれ、それぞれにテーマを設定し、パネリストによる発表と議論。2日目の全体会Ⅱでは、分科会報告の後、会場の皆さまも交えてさらに議論を深めたいと思っています。

\*詳細は、同封のチラシをご参照ください。

# 第25回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式

科学研究奨励委員会委員長 菅原洋子

第25回守田科学研究奨励賞贈呈式が6月4日（日）にアルカディア市ヶ谷を会場として開催された。第1部贈呈式に続き、第2部受賞記念講演会はZoom配信され、冒頭に中村久瑠美元会長より「故守田純子様のご報告」として、故守田純子様の追加御遺贈についてのご説明がなされた。また、最後に岩村道子会長より今年度からスタートする若手女性科学者海外研修助成事業の紹介が行われた。

今回の授賞者は、情報・システム研究機構国立極地研究所特任研究員の大藪幾美博士（雪氷学・古気候学分野）と順天堂大学大学院医学研究科老人性疾患病態・治療研究センター准教授の笹澤有紀子博士（細胞生物学分野）のお2人である。

大藪幾美博士は、神戸大学発達科学部を卒業後、北海道大学大学院環境科学院へ進学し、2015年に博士（環境科学）を取得、同大学低温科学研究学術研究員を経て、同年10月に国立極地研究所に特任研究員として着任し、現在に至っている。受賞研究課題は、「氷床コアの先端的分析による過去の気候変動の研究」で、極域に出かけ氷床コア掘削やフィールド調査を行うとともに、実験室での緻密かつ膨大な分析研究により、氷床コアに含まれるエアロゾルや気体成分の解析手法の開発に成功し、高精度な年代特定に道を開くなど、今後の古気候学分野の発展への貢献が期待される。

笹澤有紀子博士は、慶應義塾大学理工学部を卒業後、同大学大学院理工学研究科へ進学し、2012年に博士（理学）を取得、同大学理工学部助教を経て、2015年4月に順天堂大学医学部神経学講座に特任研究員として着任、2018年4月より同大学大学院医学研究科老人性疾患病態・治療研究センターの特任助教となり、本年2月准教授に昇進した。受賞研究課題は「パーキンソン病分子病態の解明～治療薬開発を目指して～」で、ケミカルバイオロジーの手法を駆使し

て、パーキンソン病分子病態の解明と治療薬開発を目指した研究を着実に進めており、将来が期待される。研究内容の詳細はお2人の受賞者の記事をご参照いただきたい。

第3部受賞記念パーティーでは、受賞者の推薦者の東久美子情報・システム研究機構国立極地研究所教授、斉木臣二筑波大学医学医療系教授、受賞者のご家族にご挨拶を賜り、和やかな歓談の一刻を過ごした。

## 第26回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

**趣 旨：**本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対 象：**自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2024年4月1日現在）の女性科学者を対象とします\*。

\*出産・育児・介護等による休業期間等がある場合はこの期間を年齢から除外します。対象者は根拠を明記してください。

**授賞件数：**年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

**提出書類** 応募書類はメール添付で提出していただきます。

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 推薦状（推薦者から直接別メールで送付）
3. 履歴書  
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）、職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）  
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内（ファイル名に研究業績リストの通し番号を入れてください）

【送付先】 morita\_prize@jauw.org

【件名 (subject)】「第26回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」

\*推薦状以外 (1,3,4,5) を各々pdf化して1つのフォルダーに収め zip

ファイルとする。

フォルダー名：応募者名

zip ファイルの容量が5MB 以下：メールに添付で送付、

zip ファイルの容量が5MB を超える場合：ファイル便で送付

\*推薦状：推薦者から直接 morita\_prize@jauw.org宛に送付  
件名 (subject)：「第26回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募（推薦状）」

ファイル名：被推薦者名

上記の提出方法について、不都合がある方はメールにてお問い合わせください。

応募締切日：2023年11月20日（月）（必着）

選考結果の通知：2024年3月末

書類送付先・問合先：e-mail: morita\_prize@jauw.org

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6

パトリシア信濃町テラス101

Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889

https://www.jauw.org/scholarship-information/  
moritakagaku/



## 守田純子先生の遺言に感謝して

元会長 鷺見八重子

守田科学研究奨励賞は、守田純子先生（お茶の水女子大学卒・化学専攻）から遺贈された資金（1500万円）により1999年第1回贈呈式が行われました。以来、毎年2名の優秀な受賞者による記念講演の模様を掲載する「会報」は、遺言執行人である福岡在住の林英昭氏（ご実弟）に届けられ、JAUWのこの事業を多とされた林氏は、その後2回（1999年・2008年）にわたり1千万円ずつ遺贈を加えられ、3回目の折は本部事務所まで持参されたのでした。

その後10年ほど交信が途絶えていましたが、2018年夏のこと、青沼美撫子福岡支部長（当時）に林様宅へのご挨拶をお願いしたところ、何度も訪問されようやく面会が叶った折、英昭氏ご本人が「このようにして出てこられて持病のお話をされ、『遺産の件は売却出来たら、一番に寄付しますから安心してください。』』と言われた由（青沼様からの便り）。

英昭氏は2019年秋に逝去され、2020年7月から遺言執行は中村久瑠美・仲田章弁護士に委任となり、3年がかりで完了しました（マンション等売却による遺贈1280万円）。守田純子先生および林英昭氏のご遺志に改めて感謝しております。

## 氷床コアの先端的分析による過去の気候変動の研究

大学共同利法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所  
特任研究員  
おおやぶいくみ  
大藪幾美



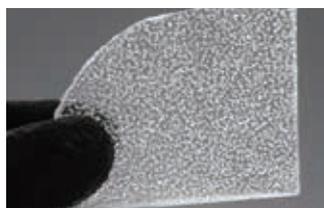
地球の気候や環境の変化が顕在化している現在、そのメカニズムを理解して今後起こりうる大きな変化を提示し、予測を高精度化するためには、過去に実際に起こった大変動を復元して解き明かすことが重要です。南極やグリーンランドの氷床を掘削して得られる「氷床コア」はそのための絶好の試料であり、特に過去の空気やエア

ロゾル（大気中の微粒子）を直接保存する唯一の媒体であるため、過去の気候変動の研究において中心的役割を果たしてきました。その中で私は、氷床コア研究の主要分野であるエアロゾルと含有空気の両分野に取り組み、気候変動メカニズムの理解推進を目指して研究してきました。

氷床コアのエアロゾル研究では、走査型電子顕微鏡を用いて5万個以上の微粒子を分析し、氷を融解して測定される濃度データと組み合わせることで、氷床コア中のエアロゾルの濃度と組成、形態、種類（海起源か陸起源かなど）を復元しました。南極の2本の氷床コアの解析からは、周辺大陸から2地点へ飛来した鉱物ダストの量や起源が異なることを初めて定量的に明らかにし、我が国の全球気候モデルのシミュレーション結果との整合性を示したことで、環境変動の理解と気候モデルの検証を進めました。

その後、氷床コアの含有空気へ研究テーマを広げ、従来の手法の半量以下の氷試料から8種の気体データを同時に世界最高水準の精度で分析する手法を確立しました。この手法を用いることで、世界初となる氷床内部の窒素と酸素の比（ $\delta O_2/N_2$ ）の真値の取得に成功し、南極氷床内陸部の $\delta O_2/N_2$ が、地球の軌道要素の変化により生じる掘削点の夏期日射量変動の精密な指標となることを示しました。過去の日射量は正確に計算できるため、 $\delta O_2/N_2$ データを日射量曲線に同期させることで高精度な年代を構築できます。そこで、 $\delta O_2/N_2$ をはじめ同時に取得した多種のデータを、バイズ法による年代計算モデルの制約条件として用いることで、日本が有する南極ドームふじコアの年代を他の氷床コア年代の2~4倍の高精度で構築しました。 $\delta O_2/N_2$ 年代の精度は古くまで遡っても一定のため、より古い時代においては最も高精度な年代となり、古気候学分野全体の発展に大きく貢献できると期待されます。

今後は、開発した分析手法を駆使して、高精度年代に基づいた詳細な気候変動の復元を古い時代に遡って進める計画であり、データに基づいた過去の気候変動の復元や理解とともに、全球気候モデルや氷床モデルを紹介した気候システムの理解へ貢献していきたいです。



氷床コアの薄片。白い粒は過去の空気が封じ込められた気泡。

## パーキンソン病分子病態の解明 ～治療薬開発を目指して～

順天堂大学大学院医学研究科  
准教授  
ささざわ ゆきこ  
笹澤有紀子



パーキンソン病はわが国で2番目に多い神経変性疾患で、ドパミン神経細胞が障害を受け、運動障害が生じ、徐々に進行する疾患である。その発症メカニズムは未解明な部分も多く、治療法はドパミン補充療法などの対症療法に限られ、厚生労働省の難病に指定されている。パーキンソン病治療薬

の開発のためには、第一にその分子病態を理解することが必要であり、私はこの課題に取り組んできた。

まずパーキンソン病患者および健常者の血液中の成分を分析・比較解析し、ポリアミンの代謝がパーキンソン病患者で変化することを見出した。さらに、このポリアミン代謝の過程で毒性物質アクロレインが生産され、パーキンソン病患者血清中で高値を示すことを明らかにした。そこで、この毒性物質が引き起こす細胞応答を解明すれば、パーキンソン病分子病態の理解、ひいては治療薬開発へと繋げると着想し、更なる研究を推進した。

ヒト神経芽細胞腫 SH-SY5Y 細胞において、アクロレインは、「タンパク質分解の場であるリソソームを細胞の中心に集め、オートファジーを誘導する」という非常にユニークな活性を示すことを発見した。オートファジーとはタンパク質などの細胞成分をリソソームで分解・再利用するシステムであり、近年そのシステムの破綻とパーキンソン病との関連が徐々に明らかになっている。

アクロレインによるリソソーム集積機構を解析した結果、TRPML1/ALG2/リン酸化JIP4が複合体を形成することでリソソームとダイニンモータータンパク質が連結されリソソーム集積が引き起こされることを発見した。さらにこの新規機構で引き起こされた「リソソーム集積を伴うオートファジー」は、アクロレイン自らの酸化ストレスに対する防御応答であることを示した。

以上より、パーキンソン病患者でポリアミン代謝変動により毒性物質アクロレインが増加すること、アクロレインへの防御応答として「リソソーム集積を伴うオートファジー」が活性化されることを見出した。これらの結果から、リソソーム集積を加速することのできる毒性のない薬剤はパーキンソン病治療薬として期待できる。現在はそのような薬剤の探索研究を行なっている。

最後に、受賞にあたり共同研究者の皆様、所属研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。

CSW67に参加して

小林萌菜

2023年3月6日から17日にかけて、ニューヨークの国連本部にてCSW67が開催されました。私はオブザーバーとして、会議期間中の様々なイベントに参加し、今回の優先テーマについて、知見を深めました。



会議では、世界各国で男女平等を保障し、女性に対する差別を禁止する法律が整備されるまで、現在のペースだと286年かかるという試算が多くの場面で引用されていました。ジェンダー平等意識の高まりは見られるものの、多くの課題が残されているのが現状です。

国連という場に赴いて実感したことは、一括りに「ジェンダー平等」と言っても、課題は国によってかなり異なるということです。水などの根本的なインフラ整備の必要性、デジタルへのアクセスの格差、STEM人材の不足など、問題認識は様々であることに驚きました。

ここから言えることは、実態を正しく把握し、それに即したアクションを取ることの重要性です。日本での課題認識が、同じように他国でも通用するとは限らないということです。問題解決の糸口を探るためには、世界を動かしていこうという「熱い心」と、冷静に課題を認識する「冷たい頭」の両方が肝要であると改めて実感しました。

継続的な情報の発信による意識形成 嶋田梨子

国連女性の地位委員会（CSW67）にオブザーバーとして参加して、様々な分野で活躍している世界の参加者と対話を重ね、また熱量のある積極的なスピーチを聴き、大きな刺激を受けた。このような貴重な経験を通して学習したこと、また所感を述べたい。



特に印象深かったのは、CSW における各国の情報共有の場としての役割である。国連日本政府代表部のブリーフィングで、日本の役割は実践や実例を世界に見てもらい共有する場であるということを教えられ、実際に「女性のためのデジタル人材育成プラン」などの枠組みが挙げられていた。各国でジェンダー平等や経済発展度に差があることから一様に全ての取り組みを進めていくことは難しいが、合意文書を通じて、各国が「ジェンダー平等に向けて取り組まないといけない」という共通認識をこの場で共有することに意味がある。さらに各国代表が他国の制度や技術を自国に持ち帰り応用していくことにより、相乗効果が見込めることから、このような機会に情報や具体例を発信していくことの重要性を認識した。

今後の課題として、継続的な情報の発信と共助の意識形成が必要になると考える。CSW などの大きな場に限らず、友人や家族などまずは身近な人とジェンダー平等について対話を重ね、自分には何ができるのかを模索することで、意識的なところから社会的価値観の変化にも繋げていくことができるかもしれない。

CSW67に参加して

東京支部 藤川真理子

ニューヨークまで出かけた中で、私が報告に際して特筆したいと感じたのは国連日本政府代表部での3月15日の2回目のブリーフィングでした。出席者9人の自己紹介、代表部サイドからの報告に続いて舌鋒鋭い日本政府代表団の草薙ユース代表（今回から始まった youth interactive dialogue に選ばれた）と小林、嶋田兩名を含む8名が質問をしました。

孫崎公使は

- ・CSWには残念ながら強制力、拘束力はなく、問題意識を共有し各自が国に持ち帰って議論を深め空気を醸成することが重要、
- ・合意文書（結論）は会議の成果物として重要であるがCSWの全てではない、あくまで優先テーマの中で皆が合意できることをまとめたもの、
- ・サイドイベントは合意文書のcomponentにはならないが重量な役割としては、例えばある課題について、日本の国内対策での好事例や国際協力において支援する途上国と同じ土俵での実践例の提示等があげられる、

約7分にわたり丁寧に政府の立場、見解を示されました。

個人的には3月7日に「女性と女兒に対する暴力への対策についてCSO（市民社会組織）がどのように寄与するか」というテーマのパシイワインターナショナルの平行イベントにパネリストとして参加し日本におけるサイバーバイオレンス対策の法制化の流れ、国際婦人年連絡会の寄与等について発表させていただきました。（右端が藤川さん）



★来年3月のCSW68参加支援希望者を募集しています



宮島茂子さんを悼む

元会長 阿部幸子

1995年から国内奨学委員長を2期、国際奨学と名称変更後の2001年からの2期と合わせて8年間にわたり委員長および担当理事としてご活躍された宮島茂子様が昨年12月13日に永眠されました。留学中は勿論、帰国後にも留学生を親身になってお世話してくださり、2005年に実施した奨学生追跡調査の折には、宮島様のお陰で留学生たちと繋がることができ、報告書をまとめることができました。今、改めて宮島様に感謝を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

## 大学女性協会編『災害の記憶をつなぐ』が刊行されました

生涯学習委員会担当理事 窪田憲子



3年以上かけて準備してきた『災害の記憶をつなぐ』が今年5月の総会の日に刊行されました(すびか書房、216頁、定価1980円)。

当委員会のよびかけに応じ、70名を超える会員の方々から、阪神淡路大震災、東日本大震災、新潟地震等の貴重な体験や、各地に残る災害の記録などの原稿をお寄せいただきました。会員ご自身の被災の生々しい体験や、被災地での支援活動など他方面にわたる災害の姿が迫力をもって浮き彫りにされています。また本書は、防災に対して女性がその担い手になることがいかに重要であるのか、という防災対策への提言の書ともなっております。

本書を関係諸機関に寄贈するなど、協会の活動の一端として本書を有効に使いたく、5月中旬に会員の方々に、本書の希望冊数申込受付けの手紙をお出ししました。多くの方々からお申込みをいただき、おかげで用意していた500冊は配布完了となりました。会員の皆さまから全国の関係諸機関に寄贈したいというお申し出をいただき、本書の有効活用ができました。また多くの方々から出版記念の寄付を頂戴しました。会員の皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。

本書について、被災の大変な状況がよくわかった、等々の感想が寄せられております。そのような読後感は大変貴重ですので、本協会ホームページ、または右のQRコードからぜひご感想をお寄せください。お願いいたします。



## 香席－組香「此花香」を楽しむ

薬師寺東京別院において

文化交流委員長 建部静代

2023年2月23日文化交流委員会では薬師寺東京別院に於いて御家流(おいえりゅう)の香席で「組香・此花香を留学生と楽しむ会」を実施した。参加者27名(内留学生6名)。香席を1回で実施するには人数に限界があった。各大学への応募告知をすると、翌日には満席になり、留学生からは「文学等では知っているが実際に体験したい」と熱心な参加希望が寄せられた。

香道は一連の作法のもとに香木を焚き、香りの中に文学的情緒をイメージする。そのため、古典文学や書道の素養も求められるが、知識がなくても香りが楽しめるので、特に近年は世界各地に愛好者が増加の傾向にある。

「此花香」は「源氏香」とならぶ、伝統的な「組香」で、大谷香代子席主が証歌(主題の和歌)のイメージで選んだ香木5香(お試し3香に「咲くやこの花の伽羅」の2香を混ぜる)を順番に聞き分ける優雅な遊びである。お茶室では養老朝枝席主による薄茶の香りが立ちのぼる。香席・茶席の床間に由緒ある品々を飾り迎えてくださる。最後に薬師寺東京別院の松久保伽秀執事の絶妙な話術に笑いに包まれた雅な1日が過ぎていった。留学生から「香道は文字では取り戻せない時代を生き返らせてくれる。…言葉の飾り気がなく、ただ世界をみせてくれる。」と感想がよせられた。

\*会員の松村和子神戸支部長が全部当てられて、「記録」の奉書を頂いた。\*証歌 「難波津に咲くやこの花冬ごもり今は春辺と咲くや此の花」古今和歌集より



## 香港大学女性協会 CIR 来日

国際ネットワーク委員会 窪田憲子

香港大学女性協会のCIR ジャニス・パンさんが5月に来日。目的は、香港・日本両協会間そして奉職する香港パプティスト大学と日本の大学との人的交流及び共同事業の可能性を探るためである。24日には本部で岩村会長、加納国際奨学委員長他と奨学事業等に関し一時間余の情報交換。29日は奈良女子大学を中道支部長の案内で訪れ、国際戦略センター長と面談後、構内を見学。31日は久保京都支部長と数名の会員と共に、宇治で薄茶点前や街の散策を楽しまれ、翌日帰国された。



活動的なパンさん、この日は他2カ所を訪問



女子大では日本初の奈良女子大学工学部にて



パンさんは源氏物語で日本語を学ばれた由

ワークショップ

主催：一般社団法人 大学女性協会 後援：京都府 2023年2月19日

「世代・文化を超えてジェンダーを再考する～世界の事例を通じて考える現代の課題～」

若手会員による本ワークショップは京都、東京、Zoomの3会場を結んで、日本、中国、ウズベキスタン、インドの若手研究者が登壇して開催されました。4人の企画者にテーマにかけた想いと当日の議論の内容を語って頂くとともに、登壇者の報告を（英語による報告は通訳者から）紹介します。

ワークショップから次のステップへ

浅井歩（京都支部） 一原雅子（京都支部）  
塩尻かおり（京都支部） 宮下摩維子（東京支部）

今回、あえて「手垢のついた」テーマであるジェンダーを選んだのは、再度私たち自身のなかに潜む無意識のジェンダー不平等を自覚し、大学女性協会としてどのような活動支援がジェンダー改革を進める方向となるのかを考えたからである。そのため、日本国内にとらわれず、国際的なジェンダーへの意識や各国の取り組みを知り、それを踏まえた上でワークショップを開き議論をするという形をとった。

ワークショップでは、京都会場、東京会場、Zoom会場の3つのグループに分かれて議論を行った。女性のみではなく男性もサポートするバランスのとれた支援が必要であること、大学院進学や留学などの挑戦が自分の将来にどのように寄与するか未来を見通せないために若い世代はチャレンジしにくい状況にあること、特に地方においては女性が一度地域を出てしまうと、戻ってくる場所がないと感じてしまったり踏み出せないことなどが指摘された。これらを踏まえて、大学女性協会が貢献できることはなにかについて様々なアイデアがでた。その一部を記載すると、本協会は多様なキャリアパスを経験してきた人材の宝庫であって、成功も失敗も含めてロールモデルを若い世代に示すことはできるのではないかと（メンター制度の構築）、奨学生の横のつながりを大事にし、公私含めた経験の共有の機会を増やすことも有用ではないかと、今回、京都会場に高校生が参加してくれたが、中高生を含めた若い世代への裾野を広げることが重要ではないかなどが挙げられる。また、今回の話題提供者や議論内容は大学に偏重していたが、これは社会から形式的には一定の距離をおき、自治が守られ比較的進歩的なのは大学の議論のスタートとしたことによる。将来的には民間企業、地域社会等も含めた社会のあらゆる場におけるジェンダー改革についても議論を進めたい。

今回のワークショップで示された提案を糧に、協会の先輩方が私たちの世代にくださったのと同様に、私たちも、また、次の世代に少しでもよい社会を引き継ぐ責務がある。そのために、大学女性協会として目指すべき活動の方向性を、引き続き検討する所存である。

ボストンでの留学体験  
～現地の研究と女性研究者の活躍～

2021年度安井医学奨学生 広瀬思帆

癌は難治疾患であり、一刻も早く新しい治療薬の開発が求められている。基礎研究成果を迅速に実用化させるには、創業に関わる全ての関係者を円滑につなぐシステムの構築が必要である。その仕組みを学ぶため、修士修了後に開発型医療が最も進んでいるボストンに留学した。



講演では、留学中の体験を通じて、女性研究者が大いに活躍している現状について共有した。Harvard 大学では女性研究者のセミナーが頻繁に開催されていた。世界をリードする女性研究者の講義に刺激を受け、研究者を志す女子大学院生が増えている。博士課程の学生に向けたキャリアパスセミナーにより博士・アカデミア卒業後の進路相談も設けられていた。起業家精神の滋養や投資家に向けたピッチイベントが大学内で行われており、製薬会社・政府・アカデミアからさまざまな日本人女性がボストンの創業エコシステムを学びに来ていた。ボストンでは女性の研究者や起業家へのキャリアパスが豊富であり、起業家の育成や創業への橋渡しに関する技術・知見を積極的にセミナーとして共有していた。日本でも博士課程後のキャリアや留学・起業への関心を持つ女子大学院生を増やすことが課題だと考える。（東京会場）

中国と日本の結婚と「性平等」への女性の取り組み  
(Lin Sun さんの報告)

Lin Sun さんは現在香港中文大学講師ですが2017年の JAUW 国際奨学生です。2015年と2018年に早稲田大学アジア太平洋研究所に所属し、博士論文のためのインタビュー調査を行いました。研究課題は「都市部の若い日本人の結婚における幸福について」です。Lin さんは最初の調査項目には「性平等 (gender equality) の達成」を入れていませんでした。しかし結婚の幸福度を考察する際に「性平等」が重要な要素であることに気づき、その後 WE (仮の名称) の会合にも出席するようになりました。



中国の男性にとって、夫や子供に美味しいお弁当を作り、笑顔で子育てをしてくれる日本女性を妻にすることは憧れです。しかし Lin さんは WE の会合で、家事、育児などの負担の不平等、出産後の職場復帰の困難さ、夫の転勤に伴う自身のキャリア放棄など、結婚後の日本女性を取り巻く「ガラスの天井」の実態を知りました。また、WE のメンバーの「性平等」に取り組む熱意は、研究生生活、結婚生活両立の際の Lin さん自身のジレンマ、混乱、プレッシャーに新しいレンズ（見方）を与えてくれました。

最後に Lin さんは JAUW の国際奨学生に選んでいただいたことに深謝していらっしゃることをお伝えします。（Zoom 会場）

長谷川瑞穂（東京支部）

## ウズベキスタンにおける女性支援施策 (Khulkar Turdieva さんの報告)

ウズベキスタンのタシケント州立大学講師 Khulkar Turdieva さんは2016年の JAUW 奨学金の受給者であり、筑波大学にて2016年9月から2017年3月まで「異文化コミュニケーションにおける日本語とウズベク語のポライトネスの実践的比較」というテーマで研究されました。この研究は語用論や文化比較という分野であり、彼女は日本とウズベキスタンをことばの使用や文化という視点で比較し、印象深かったことを伝えてくれました。一つは「日本人の思いやり」についてです。出会った人々の親身な行動や言動に大変感激したとエピソードを交え語ってくれました。またウズベキスタンでは、伝統的価値観から女子は男子に比べて幼い頃から抑圧されて育っていて、それに比べて日本の方がジェンダー平等が推進されていると感じたとのことでした。最後に、ウズベキスタンで最近始まった施策として、2021年以降、修士課程の女子学生に対する全額奨学金支給、フルタイムの給与を維持したまま3歳未満の子供を持つ母親および妊婦の労働時間短縮、政府における女性のポスト拡大等興味深い施策が報告されました。Khulkar さんは JAUW に深く謝意を表しておられました。(Zoom 会場)



大井恭子 (東京支部)

## 理系分野におけるジェンダーの障壁と挑戦 (Surabhi Rathore さんの報告)

インド出身の報告者は、JAUWの2018年度国際奨学金を受け東北大学で「人工透析など医療処置に際する血液の複雑な流れを数学とコンピュータを使って調べる研究」で成果を上げ、博士号を取得後、東北大学助手そして京都大学ポスドクのポストに就き、女性科学者として歩み出した若き研究者です。今春より、イタリアのSISSA 高等研究所から招聘され、さらに活躍の場を国際的に広げています。



報告では、このように努力できる優れた能力と周りの支援に恵まれた報告者でも、女性が学術研究のキャリアを成就させる過程に立ちはだかる障壁が存在することを客観的に観察し指摘しました。障壁を取り除くために出来ることと、すべきことについて、(1)大学・教育機関(2)若手女性研究者自身(3)女性一般のアクターごとに、科学者らしく冷静に分析し、政策提言までも提示しました。

豊富な内容の中で印象に残ったのは「現状に対するゼロ・トレランス」「メンター制度」「ロールモデル」「ネットワーク」。何よりも「ジェンダー公平・公正が学術の進歩を促進する。全ての人に公平な処遇と平等な機会、全ての研究者の最善の状態を保障する環境づくりが学術進歩の決め手である」という主張は、ジェンダー平等の普遍的な大義を明言しており感動を覚えました。(京都会場)

鈴木千鶴子 (長崎支部)



東京会場



京都会場

## 長崎支部会員の活動について

長崎支部長 梅田和子

長崎支部の会員は現在13名です。支部会員は JAUW だけではなく、多方面で活動されています。その一部を紹介します。鈴木千鶴子さんは国際ネットワーク委員長で活躍される一方、長崎純心大学で James Nolan, Jr. の「長崎と原爆のその後」をテーマとする研究を通訳として支援。

中田慶子さんは NPO 法人 DV 防止ながさきの理事長として、若い世代へのデート DV 予防教育を。これは全国でも先駆的な取り組みで、毎年県内中学・高校合わせて100校程度、手分けして五島、壱岐、対馬、平戸、島原など離島も含めた学校へ出かけている。ここ数年は、DV 加害者教育プログラムの実施にも協力。

中村住代さんは広範な国民連合長崎の代表として、8月10、11日開催の第19回全国地方議員交流研修 in 九州を現地実行委員会として支援。

関きみ子さんは日本と英米の古典文学を読んで分析することで、「自立した女性としてどう生きるか」という問題を話し合う講座で、『緋文字』を担当。

国武雅子さんは長崎女性史研究会代表として、長崎で地域女性史研究会を開催。

中尾理恵子さんは離島の高齢女性の健康長寿の研究中で、茨城支部の中島美那子さんと交流。

平野啓子さんは「市民後見人の会・ながさき」で、保佐・後見等の活動。

梅田は視覚障害者支援の長崎県音訳の会で活動。以上



紫陽花の美しい眼鏡橋

秋のコンサートのお知らせ

文化事業委員会

～スイスヨーデルの風コンサート～

アルプホルンの妖精リザ・シュトル、グシュティ・シドラ夫妻をスイスから迎え、日本人初のヨーデル特級認定歌手の伊藤啓子、アムスレ・クヴァンテッド、東京ようである合唱団による本格的なヨーデルコンサートです！

日時：10月6日（金）  
公演：昼15：30開演  
夜19：00開演  
場所：四谷区民ホール  
（丸ノ内線「新宿御苑前」徒歩5分）



チケット：販売は7月10日より  
JAUW 会員特別価格4000円  
詳細は JAUW 事務室まで

6月15日（木）けやきホールで開催された“バリトン加未徹、ピアノ河野裕子のコンサート”は大好評のうちに終了いたしました。ご協力に感謝いたします。

（一社）大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

期間：2023年2月1日～2023年6月30日

寄付者延人数：9名

寄付金額：252,100円

上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別 五十音順）

- （東京支部）岩村道子（神奈川支部） 穂田信子
- （京都支部）中村泰子（奈良支部） 中道貞子
- （岡山支部）片岡雅子、曾田佳代子
- （長崎支部）鈴木千鶴子（賛助会員） 高橋政春

全体期間：2021年4月30日～2023年6月30日

寄付者延人数：228名、寄付総額：2,722,600円

寄付金の振込先口座

銀行：ゆうちょ銀行

名義：一般社団法人 大学女性協会

① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合

口座記号及び口座番号：00130-0-587701

※パトリア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。

② 他行から振込の場合

支店名：〇一九店

口座種類及び口座番号：当座 587701

※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

理事会から

- ▶ 来年3月の国連女性の地位委員会（CSW68）に参加支援を希望する若手を募集中。申込・詳細は JAUW サイトから。
- ▶ 多角的観点から全国延107大学における障害学生への支援を調べた社会福祉委員会の報告書『大学における障害学生支援』調査』が4月刊行されました。
- ▶ 9/9（土）14時～「ポストコロナ時代の国際教育」と題し常磐大学学長・富田敬子会員による J カフェを Zoom 開催します（申込締切9/1）。7/8には2022年度国内奨学生濱松若葉さんから障害者の学びと就労に関して伺いました。
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月9日（水）～20日（日）

一般社団法人 大学女性協会 2023年度国内奨学生募集要項

I 応募資格

- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
- 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
- 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- \*備考
  - ・1大学から各部門1名ずつ3名まで、1名は1部門に限り応募することができる。
  - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再応募することはできない。
  - ・在籍年数に休学期間は含まず、2024年2月末日に、在籍であること。
  - ・秋入学の場合は2023年10月末日時点で在籍1年以上であること。
  - ・博士課程後期1年、6年制博士課程1年在籍者は博士課程前期（修士）修了と同じ扱いとし、資格要件を満たすものとする。
  - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
  - ・経済的理由は、一切問わない。

II 支給額および募集人数

- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
- 社会福祉奨学生 学部生10万円 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
- 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- \*備考
  - ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
  - ・奨学金は1回限りである。

III 提出書類（下記(1), (2), (3), (4), (6)はホームページからダウンロードして使用のこと。6月中旬掲載）

- 連絡用応募者情報  
応募者全員は「連絡用応募者情報」に記載の URL/QR コードにアクセスし、枠内に必要な情報を記入し、「送信」ボタンで送信すること（印刷して提出は不要だが、送信日を自己紹介書内の該当欄に記入のこと）。
- (1) 履歴書・自己紹介書（写真貼付）
- (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書  
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。  
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
- (3) 研究・勉学の内容について  
・大学院生は様式 A  
・学部生は様式 B
- (4) 研究業績リストおよび社会的活動  
・大学院生のみ
- (5) 学業成績証明書  
・在籍する（直前に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
- (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し  
・社会福祉奨学生のみ

IV 応募方法および締切り

応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。大学は一括して2023年8月31日（木）（必着）までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。

V 結果通知

選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2023年11月末日までに電子メールで通知する。

VI その他の留意事項

- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2025年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
- (2) 国内奨学金贈呈式は2024年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
- (3) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

新入会員 理事会承認 2023年3月～6月

- 新潟支部 涌井 杏奈 茨城支部 高橋 美紀 茨城支部 山本 美和
- 京都支部 丹治 栄理 福岡支部 道野 佐世

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリア信濃町テラス101  
電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
https://www.jauw.org E-mail : jauw@jauw.org  
発行人 岩村 道子 編集責任者 端本 和子  
発行日 2023年7月24日